

あるところに、ひろい野原が、ありました。その野原の、まん中に、高い一本の、木がありました。そして、その木のてっぺんに、一羽の、黄色い大きな鳥が、住んでいたのです。

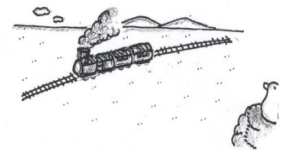
鳥は、キューという、名前でした。

キューは、高い木の上から、いつも遠くを、ながめておりました。



キューの住む野原には、一本の線路が、しかれていました。そして、そのレールの上を、一日に、なにか、町へと向かう、汽車が通るのです。

野原の西から、けむりとともに、あらわれて、そして、野原の東に、けむりとともに、消えていく汽車を見るのが、キューは、大好きでした。



1 このお話の題名は何ですか？

2 野原のまん中に、何がありましたか？

3 野原には、何が、しかれていましたか？

4 汽車は、どこからあらわれて、どこに消えていくのですか？